

# 花園大学 同窓会通信

2016 March Vol.92



A号館前庭園(1978年)

CONTENTS

花園大学初代総長に、 河野太通老師が就任	2
学長就任のご挨拶	3
学長 丹治光浩	
アマナキ・レレイ・ マファイ選手が母校に凱旋	4
花園大学師弟座談会	6
新聞水緒先生を囲んで	
新聞 水緒(文学部日本文学科教授)	
上田 勇(会社員)	
井上 友香(小学校教諭)	
同窓会ニュース	11
大学ニュース	16
クラブ紹介(混声合唱団)	17
教員寄稿「お久しぶりです」	18
お元気ですか	19
各種案内	22







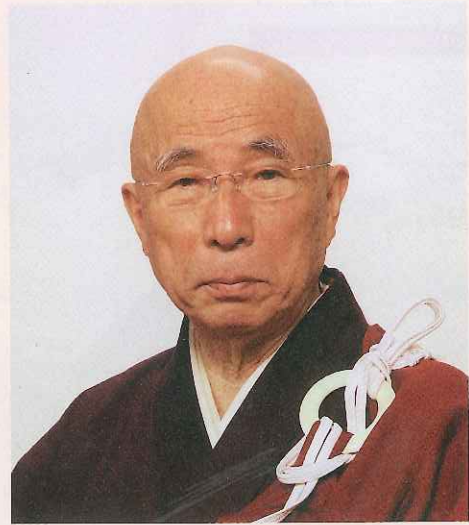
# 花園大学初代総長に、河野太通老師が就任

花園大学は、この程、建学の精神を発揚、禅の精神を体現する象徴としての総長職を新設し、その初代総長に、元花園大学学長・前妙心寺派管長の河野太通老師が、就任されました。任期は、二〇一五（平成二十七年）年十一月日から二年間です。

本学は、総長・学長の両輪の下、建学の精神の具現化によって、世界で唯一無二の大学作りを進進してまいります。

### 【略歴】 昭和五年 大分県に生まれる。

- 昭和二十八年 花園大学仏教学部卒業。
- 昭和五十二年 祥福寺専門道場師家・住職。（平成十六年まで）
- 平成六年 花園大学学長（平成十三年まで）
- 平成十六年 龍門寺大衆道場師家・住職（現在に至る）
- 平成二十二年 臨濟宗妙心寺派第三十三代管長（平成二十六年まで）
- 全日本仏教会会長（平成二十四年まで）



# 学長就任のご挨拶

学長 丹治 光浩



細川前学長が退任された後の約半年間、本学は学長不在が続きました。その間、関係各位にはさまざまな形でご心配・ご迷惑をおかけしましたこと、この場をお借りし、深くお詫び申し上げます。そのような中、新学長に推されました私に課せられた課題は、少子化を背景とする入学者の減少に歯止めをかけることにも、確かな中長期ビジョンに基づいた大学改革を実行することにあります。それには単なる組織改革や教育システムの改善だけではなく、まずは教職員が一体となった意識改革が必要です。

では、どのような意識改革が必要なのでしょう。本学は、建学の精神として「禅的仏教精神による人格の陶冶」を挙げています。それは、自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる自律した人を育てることであり、生きる力の育成と言ってもよいでしょう。もちろん、これまでも建学の精神の発揚はさまざまな場面でな

れてまいりましたが、私はこうした意識を全教職員で徹底的に共有し、大学運営に携わることこそが改革につながるものと考えています。

また、大学改革を確かなものにするためにこのたび「大学改革・IR推進室」を発足しました。もちろん改革は一つの部署だけで進めるわけではありません。学園理事会や大学執行部はもちろんのこと、関係部署と緊密に連携しながら全学体制で改革に取り組んでいるところです。

紙面の関係もあり詳細な取り組みの内容について触れることはできませんが、私は学長就任にあたり、今後取り組むべき三つの課題を挙げました。

第一は、日本一面倒見の良い大学の表現です。本学ではこれまでも「学生と教職員の顔の見える距離感」を背景に面倒見のよさを謳ってきましたが、今までの手厚いサポートをさまざまな場面で展開する予定です。ただし、面倒

見はよくても決して過保護にはなりません。あくまで、学生の自律を基本とし、必要に応じて必要なサポートを確実にすることこそが重要だと考えています。

第二は、アクティブ・ラーニングの拡充です。アクティブ・ラーニングは文部科学省が進める学生の主体性を基本とした学習法ですが、これは本学の建学の精神とまさに一致しました。したがって、花園大学におけるすべてのカリキュラムにアクティブ・ラーニングを取り入れることで建学の精神が具現化できるものと確信しています。

第三は、地域連携・地域貢献の推進です。産学公の連携は今や常識となり、各大学が進めている取り組みの一つですが、本学でもこれを積極的に進め、地域に根差した大学作りを目指します。たとえば、インターンシップの充実やボランティア活動の充実もその一つです。こうした実社会での学びの推進は、利他の精神の発揚にもつながるものと思われま

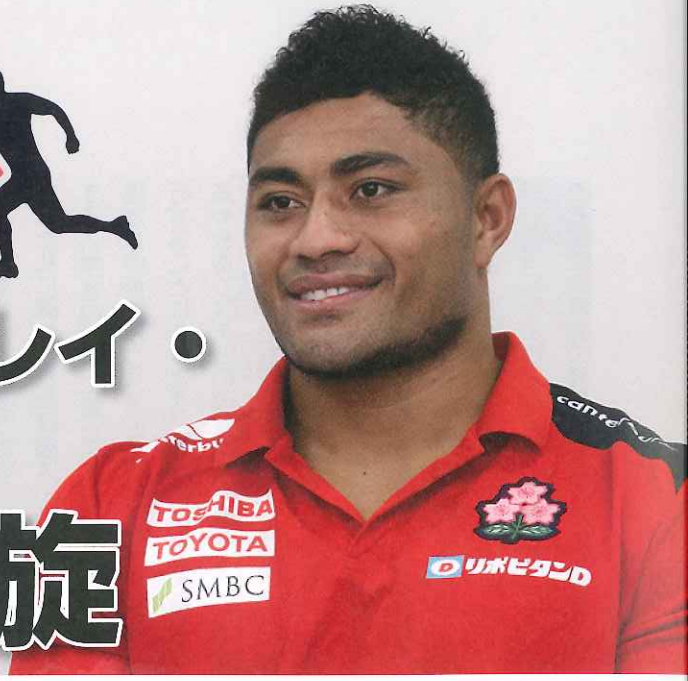
す。以上、建学の精神の具現化によって、世界で唯一無二の大学作りを実現させたいと考えています。教育改革は一朝一夕には成し遂げられないものですが、精一杯努力する所存です。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い致します。





# ラグビー・ワールドカップ 日本代表ナンバー8

# アマナキ・レレイ・マフィ選手が 母校に凱旋



## 日本ラグビーの 歴史を変えた立役者



ワールドカップ・イングランド大会において、日本代表は三勝を挙げ、日本ラグビーの歴史を変えました(過去の戦績は勝二十敗一分)。その日本代表のナンバー8として、大活躍をしたアマナキ・レレイ・マフィ選手は、花園大学の卒業生です。二〇一五年十月二〇日、大会の報告のため母校に帰ったマフィ選手を迎え、無聖名館五階ホールで学生や報道関係者など二〇〇名の見守るなか、凱旋セレモニーが挙行されました。

日本代表のジャージを着たマフィ選手が、会場後方から入場すると、大きな拍手が沸き起こり、丹治光浩学長からの「おかえりなさい」との呼びかけに、笑顔で応えました。丹治学長は、「今回のマフィ選手の勇猛果敢な姿は、日本中に勇気と希望を与え、花園大学卒業生として、本学の誇りであります」と述べ、マフィ選手にスポーツ賞が贈られました。

続いて、足立禅英同窓会副会長から、「大変な感動をありがとうございました」との言葉とともに、お祝いが授与されました。それに対して、マフィ選手からは、感謝の言葉が述べられ、その後、ラグビー部の首根誠顧問、川勝主郎総監督、江森隆史監督との座談会が行われました。

※ボールを持った選手がタックルに来た選手を手でつきはなす行為

## 花園パワーで南ア戦の 逆転トライをアシスト



今回、日本代表は、強豪である南アフリカにロスタイムで逆転勝ちをして、世界を驚かせました。その歴史的勝利について川勝総監督から、「勝てると思っていたか」と尋ねられると、「いや、試合後のロッカールームで、チームメイトに『おれ、寝ているか？夢なら起こして』と言いました」と述べ、会場の笑いを誘いました。

試合最後のプレイの選択について、「同点で終わる考えはなかったと思う。勝つしかないというのがジャパンウエイ。ただ自分はその時は何も考えていなかった」と語り、その後、立川選手からボールを受け取り、ハンドオフで凌ぎ、ヘスケス選手の逆転トライに結び付けた自らのプレイについて聞かれると、「やっぱり、おれ、強いなあと思いました」と飄々と語ってみせました。

川勝総監督から、「今回、注目の五郎丸選手は点数を多くとっているが、陣地取りに関して言えば君が一番。陣取りは点取りにつながる、僕はたえず言っているわけだけれど、あのハンドオフで、いい形で点がとれたわけだから」と言われると、「花園のパワーです」と言って会場を沸かせました。スコットランド戦では、怪我により担架で運び出される場面もありました。

「花園時代には、試合中に倒れると、監督からさぼっていると言われていましたが、今回は古傷の具合が本当に悪くなった」とマフィ選手。安静にしていた彼の元にヘッドコーチから、「次のサモア戦には間に合わせるように」とのメールが来た、とのエピソードが披露されました。「信頼が厚かったのだね。君の人間性だと思うね。今後、大きな怪我にだけは注意してください。そうしないと二〇一九年の日本のワールドカップはもたない」と言う総監督に対して、マフィ選手は力強く頷きました。

## 一生懸命やれば 何でも実現できる



マフィ選手は、一九九〇年二月十日にトンガ王国で生まれ、二〇一〇年四月に花園大学国際神学科に入学。母国ではU20、U18の代表にも選ばれていたマフィ選手は、花大のグラウンドを見て、その狭さに驚いたと言いますが、花大での四年を経て、二〇一四年四月にトップリーグのNTTコミュニケーションズに加入し、十二月に日本代表に選出されました。

川勝総監督から、「君は日本のラグビーの歴史も変えたが、花園大学のラグビー部の歴史も変えてくれた。後輩へのメッセージを」と言われて、「今の代表のメンバーは早稲田や帝京など



左から、曾根顧問、江森監督、マフィ選手、川勝総監督

### 「マフィ選手挨拶」

いつも応援ありがとうございます。川勝先生、江森先生はじめ、大学の皆さんには心から感謝しております。特に江森先生には言葉にならないくらい感謝しています。僕のことをラグビー部の監督として、時には息子のように見ていてくれました。教えてもらったことは忘れません。もし江森先生がトンガに来て、僕の試合を見ていなかったら、今日はここにはいません。あの時、スカウトしていただき、本当にありがとうございました。

大学の四年間、本当にしんどいこともあったし、楽しいこともたくさんありました。とてもいい経験をしたと思います。愛する家族と離れるのは、とてもつらかったです。その辛さをこらえてがんばってきました。大学三年の時にNTTから来ないかと言っていたとき、トップリーグへの夢が叶いました。そして日本代表に選ばれ、ワールドカップに出ることができました。こうして皆さんの支えがあったから、ここまでがんばれたし、これからもがんばります。これからも応援よろしく願っています。今日は本当にありがとうございます。





# 花園大学 師弟座談会

## 新聞水緒先生を囲んで



新聞 水緒  
文学部日本文学教授



上田 勇  
会社員



井上 友香  
小学校教諭

### 懐かしい学生時代の思い出

**新聞**▼花園大学 文学部日本文学で中世文学を担当している新聞水緒です。今日は私のゼミの卒業生一名が母校に帰ってきてくださいました。お忙しいなか、集まっていたいただき、ありがとうございます。まずは自己紹介と近況報告をお願いします。

**上田**▼文学部国文学科、一九九三平成五年卒の上田勇です。現在、会社員をしながら、ボランティアで京都の修学旅行生のガイドを行っています。また市民活動として京都市の百人委員会、客引き等審議会、京都市が推進している歩く町の審議員なども務めています。

**井上**▼文学部国文学科国文学コース、二〇〇七平成十九年卒の井上友香です。旧姓は大前です。

**新聞**▼最近、ご結婚されたのよね。  
**井上**▼はい。現在は大阪府枚方市で小学校の教諭をしています。様々な学年を担当したのですが、今は、特別支援学級を担当しています。

**上田**▼先生は、これまでにごのぐらゐの学生をご指導されてこられましたか。

**新聞**▼ゼミ生が二〇人ぐらゐの時期が十年ぐらゐ続きましたから、それで二〇〇人。二〇〇〇年代以降も一〇〇人ぐらゐはいますから、全部で三〇〇人ぐらゐですかね。私が花大に赴任したのは

一九九〇年なので、上田君は本当に最初の頃の学生でした。上田君の年代は学生数が多いときでした。当時はゼミ生が二〇人から二十五人程度で、研究室ではゼミができないので、通常の教室でやりました。私もまだ駆け出しでしたので、なかなか慣れていなくて、大変でした。

**上田**▼結構やんちゃな人が多くて、授業で先生が必死に話しておられるのに、自分たちはあまり聞かないという感じでしたね。それでも、あまり先生は怒りませんでした。私は二年間で一回だけ怒られました。ゼミとは違う話題で騒いでいたときに、「いいかげんにしなさい」と。

**新聞**▼みんな、二十歳すぎの大人ですし、私が注意をして、授業の妨げになるのが嫌だという感じがありましたので、ある程度までは、大目に見ていました。しかし、そこを超えると、「おだまりなさい」と爆発しましたね(笑)。

**上田**▼新聞先生は、そんな私たちに対しても、ポイントだけは絶対に押さえないと教えてくださったので、そこだけは、みんな押さえて、なんとか卒業できたという感じですね。本当に先生のおかげです。

**新聞**▼わりと学生同士でも助け合っていましたよね。家の事情で何かあったりすると、助けてあげたり。花大には、素直で優しい、良心的な学生が多いです。それが美点だと思います。

**上田**▼今でも思い出するのはゼミ旅行です。和歌山

の白浜に行ったのですが、誰よりも先生が一番、はしゃいでいたのを覚えています。

**新聞**▼覚えています。「補陀落渡海記」という井上靖の小説があります。補陀落渡海とは、平安時代から江戸時代にかけて、窓のない小さな船に閉じこもり、水とわずかな食糧だけもって、南海の彼方にあると信じられていた観音様の浄土を目指すというものです。那智勝浦には、補陀落渡海の出発点とされる補陀洛山寺もあり、私はどうしても一度行きたかったんです。ゼミ旅行で、そちらの方面に行くというので嬉しかったんです。

**上田**▼井上さんの時代はどうでしたか。  
**井上**▼とても自由な雰囲気でしたね。雪が降った時に、キャンパス内で雪だるまをつくったりもしました(笑)。

**新聞**▼井上さんの年代は、ゼミを跨いだ、学科の横のつながりが強かったですよね。  
**井上**▼そうですね。今でも丸山先生や橋本先生のゼミの卒業生と一緒に旅行に行ったりしています。新聞先生に研究室でのご指導いただいた後に、共同研究室に行く、他のゼミの先生方がおられて、いろいろお話をさせてもらいました。単に本を読むだけではなく、いろんな先生が私の研究テーマについて、「こんなこともあるよ」とアドバイスをくださったりと、文学とは全然関係無い話題についても話を聞かせてもらい、とても自由だなと実感しました。

### 京都で古典を学ぶことの意義

**新聞**▼御伽草子というのは、室町から江戸初期にかけてなので、中世に一応入っています。

**上田**▼花大を卒業したからかもしませんが、京都には心惹かれます。もともと高槻市出身ですが、京都の会社に就職したのを機に、京都に移り住みました。その後結婚して、ずっと京都です。卒論のテーマにもした祇王寺には関心があって、何度か足を運び、ガイドを務める機会がありました。それが機縁となって声をかけてもらい、京都の観光ガイドをすることになりました。ちょうど五年



前です。

**新聞**▼対象は中学生や高校生ですか。

**上田**▼中高生以外に、大人の場合もあります。中高生の場合は興味を持ってもらえるように、面白おかしく話すように心掛けています。大人の方を相手にするときは、歴史や古典を踏まえて、専門的なことも交えながら話したりもします。

**新聞**▼それでは、大学で勉強したことが全部活かしているんですね。よかったですね。せっかく大学で古典を学んだので、その知識を生かしてもらえてうれしいですね。

**上田**▼あまり興味のない人も話に引き込む必要がありまして、自分でもいろいろ勉強するようにしています。たぶん、学生時代よりも勉強していると思います。ガイドをやり出してから、一度テーマワークもやってみようと思って、源氏物語でやらせていただきました。そういうば新聞先生は、こう言っておられたとか、大学で勉強したことを思い出しながらやっています。それが自分でもすごく面白いですね。

**新聞**▼思い出してくれて嬉しいわ。京都は歩いてるだけで、古典に出て来る地名と出会えます。大学の周辺にも史跡がたくさんありますね。正門前の馬代通りは平安京の馬代小路の名残、佐井通りは道祖(ごい)大路、木辻通りは木辻大路の名残です。それから、例えば、寺町通りに矢田地蔵尊というお地藏さんがあります。小野篁という平

を目標されたのですか。

**井上**▼小学校のほうで自分に向いていると思っただんです。私は、昔ばなし、民話、お伽藪、絵本などが好きだったので、子供たちには、心が柔らかいうちに、できるだけいろいろなお話に接してもらいたいと思っていました。中学になると、文法を覚えてと、どっしてもなりませんので、そうなる前に、こんな面白い物語があるんだと触れてもらいたいと思って小学校を選びました。

**新聞**▼今、担当しているクラスは、特別支援学級ですね。

**井上**▼はい。私が担当しているのは、自閉症と情緒障害の児童です。アスペルガー症候群の子供たちに、人への伝え方をロールプレイングの形で学ばせたりします。ときには、私がわざと喧嘩の相手役になったりすることもあります。

**新聞**▼そやって卒業生が活躍していることは嬉しいですね。

安時代初めの貴族は、昼は朝廷に仕え、夜は地獄で閻魔様に仕えたという話が今昔物語集にあるのですが、矢田寺のお坊さんと一緒に地獄にいったり、地獄で罪人の苦しみのお身代わりになっているお地藏様を見て、この寺の本尊を造ったそうです。筆が地獄で閻魔様に仕えたという話は今昔物語集に載っています。それを読んでいたので、たまたま歩いているときに立て札を読んで、筆の話は、こんなふうな伝えられているのかと感動したことがあります。

通ではないとか、子供に死に別れたとか、人生で起きる様々なことがきっかけで出家するという話が多いので、とてもドラマチックなのです。私はそこに興味をもって研究を始めました。

**井上**▼先生はどんな経緯で古典の研究を志されたのですか。

**新聞**▼私の場合、学生時代に京都に来たというのが大きかったと思います。もし京都に来ていなかったら、これほど古典の研究をしていたかなと思います。私は説話が好きで、それを専門に研究していますが、もともとは今昔物語集から入りまして。本朝世俗部といって、世俗のものを集めた部分は、芥川龍之介が小説の題材としていることもあって有名で、面白いのですが、それと同じぐらいの比率で仏教のことを扱った仏法部という部分があります。実はそこ面白いのです。出家するというのは、世俗をまったく断ってしまうわけですから、それこそ清水の舞台から飛び降りるような決心が必要です。出家するきっかけ、機縁と

上田▼井上さんは、なぜ小学校の先生になろうと思われたのですか。

うのですけれど、それはものすごくドラマチックなんです。恋人の死、しかもその死に方が普

**井上**▼実は就職するか、大学院に進学するか、とても迷いました。あまりにも卒論の研究が楽しくて、こんないろいろな資料があつて、こんなにいろいろな世界が広がっているんだと思って、鉢かぶり以外も研究してみたいと思いました。それで新聞先生に相談したところ、一旦は、社会に出て少し恩返しをしてから大学に戻ってらっしゃいと言っていたので、就職することにしました。

んじゃないかなと思ったりします。温故知新とい

**上田**▼文学部を卒業すれば、中学校と高校の教員免許はとれるのに、なぜあえて小学校の教員免許

いませけれど、古典というのは、そういう知恵を

をみつめて、心のなかの波を払ってもらいなさい」という話を伺って衝撃を受けたのを覚えていま

学がことのできるものだと思います。

す。傍からみて、身体がゆれたら、パンと叩かれるイメージだったので、自分をみつめて、自ら

**新聞**▼現代と同じような人間の本質のようなものが古典にはあると思っんですね。現代小説は

払ってくださいとお願ひすることだと教えられました。機会があれば、また座禅をしたいです。仕事が忙しいと外ばかり見えてしまうのですが、やはり自分をみつめる時間が必要なんだなと思います。

くることがありますから。

**井上**▼逆に、現代人と中世の人間の違いはどのよう

### 学生時代の集大成としての 卒論の思い出

**新聞**▼ちょうど一昨日、卒論の試問が終わったところ

**上田**▼卒論は懐かしいですね。私は平家物語を

**井上**▼私は、鉢かづき姫を扱いました。

**新聞**▼鉢かづきは、御伽草子として、幕末まで出版



2015(平成27)年度

# 同窓会ニュース

時代は変わっても続いている卒業生同士の交流や親睦。  
今年度も、支部総会・役員会、同窓会など多数開催のご報告を  
いただいております。一部をご紹介します。



面白いから、そうしたパロディも取り上げたら  
どうかと提案しましたね。

**井上**▼新間先生と出会って、様々な資料の読み  
方も教えていただいて、卒論では、ひとつのこと  
に集中して、本当にやりきったという実感があ  
りました。

**新聞**▼本当によくやっていますね。よく身体  
が続くと思うくらいでした。

**井上**▼その際のやりきったという想いが、今も  
自信につながっています。

**新聞**▼原稿用紙で四十枚以上五十枚以内書か  
ないといけない卒論だからこそ、そういう経験が  
できるのですよね。卒論を書いて初めて勉強し  
た気がしましたと、みんな言いますよね。私は、  
極力、学生さんがやりたいことを尊重して、自分  
で考えさせるようにしています。ちょっと大変  
だというときは助け船を出しますが、それまで  
は、極力、いろんな論文や資料を読んでもらって、  
そのなかで、自分で筋道をつけていけるような  
指導を心がけています。卒論は絶対になくして  
はいけないと思います。何がなんでも卒論は  
書いてもらおう、それは譲れないと思いますね。

**上田**▼卒論を書くことで、いろんなものの見方  
を学ぶことができますよね。締め切りがあつて、  
それを過ぎたら、受け付けてもらえないとい  
うのは仕事と一緒にですね。

**井上**▼本当にそうですね。

## 花大のキャンパスで生まれた 縁を大切に

**上田**▼最近の学生さんの状況はどうですか。

**新聞**▼昔とそんなに変わらないかと思えます。た  
だ、今の時代は就職も大変なようです。アルバイ  
トで疲れて、授業で寝てしまう学生もいますが、  
起こすのがかわいそうだなと思ってしまします。  
ただレポートは出してくれないと成績はあげら  
れないとは伝えてあります。

**上田**▼私の場合も一年の途中から三年の始めま  
でバイトに明け暮れて学校に来ていませんでし  
た。ただ先生の授業だけは受けていました。卒業  
もきちんとできて、最終的にはいいイメージで終  
われました。先生のおかげです。

**新聞**▼ありがとうございます。皆さんから後輩にメッセー  
ジをいただけませんか。

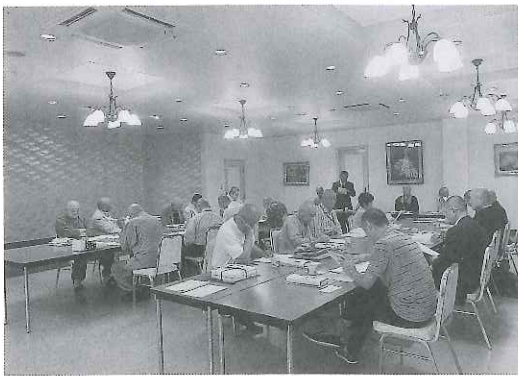
**上田**▼授業はきちんと聞いてほしいと思います。  
後で必ず生きてきます。大学時代は、古い文献を  
読んでも、よく意味がわかりませんでした。今  
になって、もう一回読み返すと分かることもあり  
ます。分からないなりに読むことが大切ですね。  
新聞先生から教えていただいたことに、文学の根  
底には人と人のつながりというコミュニケーション  
ションがあるという言葉があります。文学を通じ  
て、人と接するコミュニケーションのあり方を学

## 兵庫西支部総会

六月十八日開催

支部長 田中金作

姫路市「割烹 森富」で、二〇一五年度兵庫西  
支部総会を開催し、支部会員二十名、植木民雄  
兵庫東支部長、足立禅英兵庫北支部長、大学よ  
り、松井宗益学園長、児嶋紹義学外交流担当課  
長のご出席をいただきました。午後五時より総  
会、前年度会計決算・本年度予算案の承認、支部  
会費・支部運営(行事等含む)、大学当局への要  
望等を審議しました。総会終了後、懇親会に移  
り、和やかなひと時を過ごしました。



び、学生生活を通じて、出会った人との縁を大切  
にしてほしいですね。

**井上**▼上田さんの言う縁を私も大切にしてい  
たいと思います。私の場合、共同研究室で、いろ  
んな人とざっくばらんに語りあい、そこで生ま  
れたつながりが宝物になっています。後輩の皆さん  
には、このキャンパスで縁をつないでいてほし  
いと思います。

**新聞**▼そうですね。私は、学生には、大学で何か  
ひとつでも学んでほしいと思っています。  
知識でもいいし、人と人の縁でもいいし、それ  
を掴んで、皆さんのように巣立ってほしいと思  
いますね。今日は、本当にお忙しいなか、母  
校に帰って来てくださり、ありがとうございます。  
これからも、どうぞよろしく。

**卒業生**▼本日はありがとうございます。



## 一九七六(昭和五十一)年卒 児童教化研究部同窓会

八月二十二、二十三日開催

横山 和之

京都市右京区花園会館」で、第八回同窓会を  
開催しました。同窓会と言うものの、世間一般  
の「〓年度卒」や「〓年同期会」と趣を異にしてい  
ます。当時、花園大学にあったサークル、児研部  
(児童教化研究部の略)に在籍し、一緒に活動し  
た者が一同に会し、旧交を温め合おうとする集  
いです。二〇〇五(平成十七)年、誰からともな  
く、「皆の顔が見たいね」、「同窓会をやるよ」と  
いう声が上がリ、岐阜在住の妻木君が、全国に  
散らばっている仲間を声をかけ、第一回目を開  
きました。それ以降、二年置きに、同窓の地元  
に馳せつけ、松山、金沢、姫路、浜松、長浜各市で  
開催し、今回が六回目となります。

私は、卒業後、法務省所管の少年院の法務教  
官の職を得て、新潟の少年院に奉職してから、  
栃木県の少年院で定年退官に至るまで、転勤八  
回、転居十三回を数えるような人生を歩んでき  
ました。在職中は、年賀状のやり取り位で、互い  
に「結婚したのか」、「健康で生活しているな」と  
近況だけは知っていましたが、いざ顔を合せ話



すと、大学当時の記憶がありありと蘇り、まるで昨日逢って、今日又逢ったというような感慨が湧いてきました。四十年前、サークルで一緒に活動し、コンパで飲んで酔ったこと、各地の妙心寺派寺院で開かれる子ども会や坐禅会で、人形劇や影絵劇を上演したこと、冬合宿で深夜話したこと等、同じ体験したことで仲間意識が生まれ、同志的なつながりは、年月が経過しても変わらないと思えました。顔を合わすと皆、大学当時のあの生き生きとした表情に戻っていました。会の一週間前から私の携帯に、「会ったらどこへ行こうか」、「何時頃に到着します」というメールが頻繁に入ります、散会後も二年後に会えるのを楽しみにしています」等と続きました。同じサークルにいただけで、こんな深いつながりが生まれ、仲間意識が脈々と続いているのに驚嘆するばかりです。離れていても仲間だと実感しています。一九七六(昭和五十一)年卒の仲間は、参加者以外にもおり、在学中サークルをやめた方達もいます。私は、そういう方達も仲間の一人と思っています。人それぞれの立場があり、種々の事情や思惑があると思いますが、二年後の開催には、ぜひ参加して懐かしい顔を見せてください。この紙面を借りて呼びかけたいと思います。同窓会前、私は旧校舎を訪れました。大学から高校に様変わりした佇まいの中で、前

庭に銀杏が残っていました。樹は私が生まれる前から根付き、今も変わらず聳えています。銀杏の下で喜怒哀楽を分かち合った仲間たちよ！再び仲間意識を呼び覚まし、絆を深めたいと切望しています。



左より中谷淳一、百濟恵道、吉村(坂上)静、川崎(三ツ出)由美、武田(横山)真理、百濟(神野)範子、筆者(敬称略)( )内は旧姓

### 花園大学歴史博物館二〇一六年度春季企画展

## 湯島 麟祥院

### ―春日局と峨山慈棹―

【会期】二〇一六年四月二日(土)～六月四日(土)

※会期中、大幅な作品の展示替を行います。

【主催】花園大学歴史博物館

公益財団法人 禅文化研究所

【協力】麟祥院(東京都)

【お問い合わせ】花園大学歴史博物館

記念講演会(入場無料、申込不要、先着一五〇名)

【会場】花園大学教室

#### 「湯島 麟祥院の歴史」

竹貫 元勝氏

(花園大学名誉教授・正眼短期大学特任教授)

日時／二〇一六年 四月十三日(水)

十三時～十四時三〇分

#### 「春日局像と狩野探幽」

山下 善也氏

(東京国立博物館学芸部調査課 彫刻室主任研究員)

日時／二〇一六年 五月二十日(金)

十三時～十四時三〇分

※各講演会終了後、十五時より展示会場にてギャラリートーク(本展の担当者による展示作品の解説)を開催します。

【記念講演会に関するお問い合わせ】

公益財団法人 禅文化研究所

TEL (〇七五) 八二一 五一八九

FAX (〇七五) 八二一 一四三二

info@zenbunka.or.jp

## 兵庫東支部総会

十月二十五日開催

兵庫東支部 事務局 原田太胤

第八十五回花園大学公開講演会ににあわせての開催。講演会場から講師の板東英二氏も含めて、途中にある巨大な鉄人二十八号の像を見ながら徒歩移動をして、神戸飯店の別室にて集合写真を撮りました。総会次第は支部長、学長、同窓会副会長の挨拶に続き、視察に来られた大阪南支部長の紹介、及び隣県の兵庫東支部長よ



りの挨拶がありました。会計報告後、児嶋学外交流課長より大学の近況報告が行なわれました。総会后、講師とサンテレビ、ラジオ関西、デイリースポーツ紙、神戸新聞社各報道関係に入室頂いた上で懇親会となりました。

## 一九五九(昭和三十四)年 入学生同窓会

八月二十六～七日開催

前田 廣心

今回は、京都府在住の私たちが幹事を務め、京湯元八トヤ瑞鳳閣を会場に行いました。

同窓生が十六名と、御内室など合わせて二十名の参加を得て開催。京都が幹事ということに参加者の多くが期待の通り、もちろん祇園甲部から四名の綺麗どころが参加、花を添えてくれました。

夕方十八時三十分から宴会開始、あつという間の四時間を過ごしました。卒業から五十三年目を迎え、ご多聞に漏れず、学生時代の思い出や近況をにぎやかに話し合い、時間を忘れたひと時でした。

本当に楽しい時を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

次回の開催は、高知の「清源寺」・生玉道雄様にお願する事になりました。

日時は、二〇一六(平成二八年)年九月六日火曜日です。同窓生の皆さん、高知でお逢いできます事を楽しみにしております。

合掌



花園大学同窓会記念(昭和34年度入学) 2015(平成27)年8月26日、於・京湯元八トヤ瑞鳳閣



会食中恒例となった景品の籤引を行ない、今回は支部長が揃えて頂いた品に加え、特別に語り寄せた、高校野球百年のロゴ入りボールに講演前、板東英二氏にサインをして頂いたものを、一球用意しました。何と偶然、西支部長と共に来られていた高校生が引当て、板東氏が本人の所に駆け寄り直接ボールを手渡し、大変喜んで頂き、場の盛り上がりが高潮の中で、無事今年度総会を納めることが出来ました。

## 花園三・四会

一九五九(昭和三十四)年卒

十一月五・六日開催

足立 禪英

今回は静岡県清水に集まりました

今回は、今年十一月九日午後一時半、「報恩謝徳の念」で母校花園大学に集まります

「花園三・四会」。誰が名づけたかははっきりしませんが、いつの間にか正式名称になっています。一九五九(昭和三十四)年に花園大学を卒業した者の集まりの名称です。早いもので、いつの間にか傘寿を迎える歳にまで成長して参りました。

## 恩師の思い出

一九八二(昭和五十七)年 国文学科卒

玉岡 兼治



先日、勤務先の学生が太宰治の本を借りていった。太宰治といえば、私はやはり土岐武治先生のことを思

い出さずにはられない。おそらく、花大の国文学科の卒業生で今、五十五歳以上の人は、国文学の授業という土岐先生を必ず思い出すだろうし、土岐先生といえば、太宰治のことを思い出すと思う。土岐先生と太宰は小学校時代同級生だった。土岐先生は生まれ在所の津軽を熱愛して、先生にとっての津軽はユートピアそのものだった。ところがその素晴らしい津軽の地を、同級生の津島修治(太宰の本名)と共々、作品の中でろくな書き方をしなかった。だから土岐先生はそんな太宰についていつも非常に怒っていらした。毎回の授業の中で必ず「津島の津軽は津軽でねえ! あんなものは本当の津軽じゃないだ!」と力説されていた。先生の情熱は学問に対する厳しさと学生への想いに

若い頃、伊豆半島や三浦半島、神戸、そして長良川の鵜飼を楽しんだ思い出があります。還暦を迎える頃、平成九年に広島に集まってからは毎年、名古屋・館山寺・飛騨・城崎温泉・京都・伊豆・横須賀・尾道・長崎・仙台・西浦温泉・有馬温泉・木曾路・湯の花温泉・高松・湯村温泉・東京・そして今回の静岡・清水と毎年秋に集まったものでした。定年退職後は、待ちかねたように平成十年の名古屋から十八回二十七年の静岡県清水まで毎年欠かさず参加させて頂きました。館山寺からは、夫婦同伴も通例となり、ご婦人の姿も数名は必ず見かけられるようになりました。

今回は、板坂氏・林氏のご夫人のお世話で、久能山東照宮、三保の松原、を散策し夕食は、梅蔭禅寺お抱えの全国的に有名な老舗清水の「末広館」で豪華な夕食を。翌日は、妙心寺派の清見寺、梅蔭禅寺と名刺をお尋ねしました。梅蔭寺さんは翌日先住の齋会を控えた中、清見寺さんはお葬儀を直前にした中で親切な対応に預かり恐縮した次第でした。昼食を古風な待月楼で「ころる会席」を戴き、近くの吐月峰柴屋寺で連歌師宗長が草庵を結び閑居したと言つ名勝で心を休め、この度の素敵な旅を、お世話をして戴いた方々に感謝しながら静岡を辞したものでした。

静岡に集まった人は十四名でした。今回は卒

向けられていた。当時二十歳前の私にとっては、そんな先生の想いの深さが却って重たすぎ、結局先生の授業を受講したのは必修の授業だけにとどまっただけ。それでも先生からお教えたいただいたことは懐かしく今も時々思い出す。土岐先生だけではない。少人数の授業が多かった故に先生と学生のコミュニケーションが密で、当時の国文学科の先生方(宮岡薫先生、寺川眞知夫先生、三村晃功先生、川戸昌先生)とは卒業後三十二年が経った今もご交誼いただいているし、花大時代の友人もいまだに付き合いがある。

大学図書館で勤務しているおかげか母校との結びつきも健在だ。学外文献複写の依頼を花大にお願ひすることもあるし、研究紀要も定期的に送っていた。花大の紀要には、卒業生の卒論題目や授業担当者、学部の消息が書かれているので、誰がどんなテーマで卒論を書いたのか、お世話になった先生方のご様子もそこから知ることもできる。

勤務先の図書館では、学生の利用指導も担当して「学生の自ら学ぶ力を育成する取り組み」というプロジェクトを五年前からすすめている。大学一年から三年までの間に、図書、雑誌、ウェブ、新聞等のさまざまなメディアの特徴を知り、自分にとって必要な情報を集めるための方法を学ばせる。そして最終的に卒論やレポート

業以来五十七年を数え、お互いに傘寿の年を迎え(た)ることを記念して、立派に整備された母校・花園大学に集結して、これまで出席できなかった多くの同輩の方にも、お繰り合わせ戴き是非出席ねがい、花園大学卒業だったからこそ今の自分があるとの「報恩謝徳の念」で集まり、感謝の意を示そうと言つことに、出席者一同意を決したのであります。期日は、二〇一六(平成二十八年)十一月九日(水)午後一時半、教室二Fの会議室に集合することまで決定しました。

なお、今回の幹事は京都在住の寶積氏、板坂氏、園氏にお願ひすることになりました。幸いに寶積氏は現職の客員教授でもあり、誠に好都合であります。

傘寿以降のこの会の在りかたにつきましては、京都での集まりで決めたと思います。お互い大きくなった姿で昔を、そしてこれからを語りたいものです。ご都合をつけて戴き大勢のご参加お待ち申し上げます。



富士山(遠望)を背景に三保の松原にて

ト、さらに社会に出た時まで役に立つ資料収集・活用の実践力を身につけてもらうことを主眼としている。

年に何度か上落した折には花大のキャンパスを訪れる。私が入学したのは今の西ノ京壺ノ内町に移転した翌年(一九七八年)で、キャンパスの木々もひよるひよるとしていた。建物も木々の様子も今ではすっかり変わってしまった。

私自身も花大卒業後、幾つかの大学で学んだ。それでもやはり母校と言えば花園大学だし、今でも花大のキャンパスを歩いていると、向こうから恩師や友達がひょっこりやってきそうな錯覚にさえなる。

母校のますますの発展を祈る。





# 大学二ニュース

## 二〇一五(平成二十七年)年度報告

花園大学で行った行事やイベントなどを中心とした新しい情報を紹介します。

### 第八十四回

#### 花園大学公開講演会

十月八日

大分市高砂町

iichiko 音の泉ホール

大分県支部事務局 高田祥道

大分では三年ぶりの開催となる今回は、合気道「祥平塾道場長の菅沼守人氏を講師に迎え、講演をして頂きました。合気道開祖植芝盛平氏の最後の内弟子にして、合気道歴五十年を数える同氏は、現在福岡にて合気道の指導をしておられます。

また、合気道に取り組み傍ら、曹洞宗管長の故梅田隆信師に参禅し、坐禅歴は二十年とのこと。演題「いまこそをいきいきと生きる」と名打たれたお話は、ご自身のこれまでの歩みと、二人の師との関わりが語られました。また講演後には、合気道の演武を披露してくださいました。

演題通りのいきいきとした言葉、所作、人柄は合気道を知っている人も知らない人も聞く人それぞれに、気付きや実りがあったのではないかと思います。最後に今回の会を開催するにあたり、ご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。



### 第八十五回

#### 花園大学公開講演会

十月二十五日

神戸市長田区 ピレロホール

長福寺 原田太胤

兵庫県の同窓会支部は、北、西、東の三支部に分かれ、兵庫県東支部は、淡路島から神戸尼崎に至る阪神間で、甲子園球場のある西宮も地域に含んでおります。

今年は、高校野球百年の年に当ることもあり、現在も大会奪二振記録保持者で、第四十回大会準優勝投手、準々決勝対魚津高校村椿投手との引分け再試合は、今も名勝負として語り草になっている板東英二氏に、「高校野球百年を語る」と題してご講演頂きました。

二百名を超える来聴者があり、初めに植木支部長、丹治学長、足立同窓会副会長よりの挨拶並びに大学紹介が行なわれました。  
高校野球大会歌「采冠は君に輝く」の曲が流れる中、来聴者の手拍子で、板東氏が登壇、一時間半の講演をされました。満州で生まれ日本に引揚げて来た時に、神戸の臨濟宗の寺で仮住まいをして、小学校に一日通って徳島に引っ越したこと等、大学関係の宗派や支部の地域に気を配った話で、自身の失敗談を含め、始終おもしろおかしい漫談で笑いが絶えず、あっという間のひと時となりました。  
花園大学同窓会通信九十一号を見て、京都からおいでになった野球好きの卒業生の姿もありました。  
会場の神戸市長田区は、第一回大会兵庫県代表の出場校「旧制神戸二中(現兵庫高校)」の所在地で、第一回大会当時、二年生部員の島田勲氏は、後に沖縄戦最後の官選知事として赴任、多くの

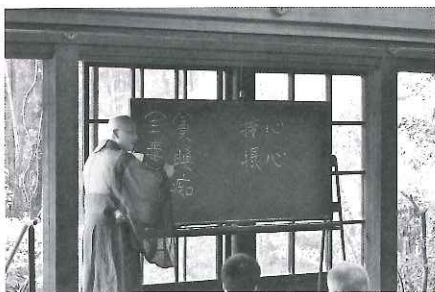


沖縄県民の命を戦禍より救われました。戦後七十年を経った今も、沖縄の人々より感謝されている方の勉強地であることを説明して、公開講演会を納めました。板東氏には、引き続き場所を移しての懇親会にも、同席して頂きました。

### 二〇一五(平成二十七年)年度大学撮心

#### 専門道場でも坐禅

二〇一五(平成二十七年)年度大学撮心は、九月十八日(金)、十九日(土)の両日開催。厳しい残暑の中、延べ約二百人が、真剣に自分と向き合いました。



初日、八幡市にある円福寺専門道場をお借りし実施しました。十二時五十分、有栖川旧御殿を禅堂とし、坐禅を着に身を包んだ参加者約百人を前に、丹治光治学長がこの貴重な時間を大切にし、自分を見つめる機会として取り組んでほしい」とと激励を込め開会の挨拶。早速、賣積

客員教授の坐禅主旨と坐り方を聴き、約二十分間の坐禅。この後、同専門道場師家・政道徳門老大師の法話を拝聴。数息観による「調身、調息、調心」の大切さをまなびました。続いて、安永教授の直日で二十分間坐った後、重要文化財に指定されている日本最古の木造達磨古尊像や、本堂、禅堂などを拝観させていただきました。専門道場を後にしました。

撮心二日目、本学に戻り実施しました。午前十時、直日(賣積客員教授の析が鳴り響き約二十分間の坐禅を開始。約百名が参加しているにも拘わらず静寂そのもの。この後、教室ホールで安永教授から「平塚らいてつ」の生涯と禅についての講話を受講し、午前の部を終了しました。昼食は、学生食堂で恒例のうどん展待。食事作法に則り読経し、花園禅塾生の供給のおかげで美味しくいただくことができました。午後一時三十分、再び禅堂で二十五分間坐り、最後に賣積客員教授が汗の中、よく座りきった。この体験を今後の生活に活かしてほしい」と総括され、今年度の大学撮心を無事円成しました。

充実した活動が、自分を磨き、絆を強く結びます。

### クラブ紹介・混声合唱団

私たちは、三回生四人、二回生四人、一回生一人の計九名で活動しています。

主な活動は、サマーコンサートと、定期演奏会での演奏があり、もともと仏教聖歌隊だったため、大学行事での演奏も行っています。又、地域でのボランティアコンサートを行うこともあります。

少数での編成になっていますが、地域の方や他団との交流が盛んで、毎年、京都中の合唱団が出演する、合唱祭にも参加しています。二〇一五年度のサマーコンサートでは、大谷大学混声合唱団とのジョイントコンサートを行いました。

音楽を通じて、地域の方や他大学との交流を深められることは、とても楽しいです。部員のほとんどが初心者のため、全員で一緒に音楽を創り出すという意識がとても高いです。これからも、部員全員で素敵な音楽を作っていけたら、と思っていますので、皆様、お時間がございましたら、ぜひ演奏会にお出でください。





# 教員寄稿



臨床心理学教授 橋本和明

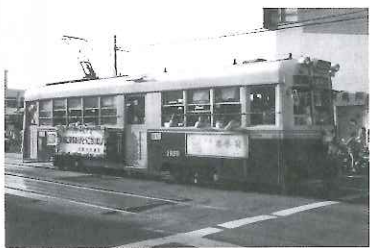
先日、高校の同窓会があり出席しました。みんなそれなりに歳をとり、貫禄も風格も出ていて、すでに孫もいる人も数名いました。「懐かしいなあ」と思わず互いに握手をする人もいました。十数年ぶりに会った同級生などは名前と顔が一致せず、「そういやあ、面影があるわ」と笑いながら、その後にはもう昔話に花を咲かせていました。お酒の勢いもあるのでしょうか？時間を共有するうちに、高校の時に戻ったような感覚になり、十数年のブランクも昨日のように感じられます。私もふと我に返ると、馬鹿をしていたあの頃に戻っていて、昔の懐かしい自分に出会ったようにも思ったのでした。

信には、何年度卒業の同窓会の集合写真が毎回載っています。皆さんの笑顔を拝見すると、今は見えなくなった傷跡なのかもしれません。その昔はその傷をいたわり合った仲間の姿がどこかに見えるような気がします。

松任谷由実の『卒業写真』という唄を存じでしょうか？つらくて苦しい時に、たまたま街で見かけた元彼の姿が、卒業写真に写っている姿と変わっていないと感じた主人公は、次のように歌います。

あの中の生き方を  
あなたは忘れないで  
あなたは私の青春そのもの  
人ごみに流されて  
変わってゆく私を  
あなたはときどき  
遠くでしかって

いつしか人は歳をとっていくけれども、同級生との関係はいつまでも歳をとらないのかもしれない。おそらくその中に青春が今も息づいているからかもしれませんね。



西が廃止され、翌年には、外周線（東大路、北大路、西大路、九条）と京都駅～丸七条～東山七条間も営業を終えた。現在の市内循環バス路線に引き継がれている。

(下七)

## お元気ですか

豊かな時間とともに過ごした  
同窓生からお手紙が届いています。



一九四二（昭和十七）年

臨専卒

牧野 清堂

前略 小生、米寿を期に、住職を姉の孫に譲り、寺の裏に小屋を建て、小生（九十四才）、妻（九十二才）が、長女（六十六才）の世話になっております。脚腰が痛くて歩行困難、最近、手足の先がしびれて、何事も不如意。病院以外は何処へも行けず、無為に消光するのみです。

後略

一九四三（昭和十八）年

臨専卒

竹内 廣國

一九四四（昭和十九）年二月一日、現役兵として戦車十二聯隊に入隊。一九四五（昭和二十）年十月三日、召集解除、復員。一九四八（昭和二十三年）四月二十二日、南禅寺派東



一九八〇（昭和五十五）年

史学科卒

横井（旧姓西島）葉子

PSW（精神保健福祉士）として

障害者支援を致しておりましたが、考える事があり、社会福祉士にチャレンジする事になり、東京の専門学校に通っております。夜間の授業を終わって、帰宅は午後十一時三十分すぎですが、自分でも不思議な位、楽しんで勉強しております。



一九八一（昭和五十六）年

史学科卒

木ノ内（旧姓久松）義昭

花大を卒業して三十五年になりました。学生時代は邦楽部で尺八を吹いており、今でも京都での四年間がつい昨日の事のように想い起こされます。二〇一四（昭和二十六）年の十一月に邦楽部のOB会が京都で開かれ、久しぶりに先輩や後輩の皆様と再会し、学生時代の初心の気持ちにリセットされていくのを感じた次第です。幹事の皆様、ありがとうございました。再会を楽しみにしております。

尺八については三橋貴風師の指導の下で現在も続けており、特に普化宗本曲に傾倒しています。これまで師匠や兄弟子と共に、宇治の萬福寺や、由良の興国寺、曹洞宗永平寺などで献笛してまいりましたが、いつの日か、妙心寺で献笛させていただきます。ければと思います。

ところで、法縁というのでしょうか。十五年程前に邦楽部の大先輩である静岡市・秘在寺住職の武山清堂さんと偶然知り合いになり、それ以来、毎月一回秘在寺を拠点に、県内

## あんなころ、あんなとき

一九七七（昭和五十二年）

現、花園中等学校の学舎で入学式を終えた我々は、五月下旬まで移転闘争のあおりを受け、講義を受ける事が出来なかった。現キャンパス（中京区西ノ京壺ノ内町）に移転した頃は、夏休みが明けても西院や大宮からタクシーに乗車し、「花園大学へ」と行先を告げると、七五～八十%の確率で、花園中等学校に連れていかれた。特に年配の個人タクシーのドライバーさんには「日本レース」と言った方が、確実に大学に着く事ができた。

学生・市民の足であった京都市電は、この年の九月末で河原町線と七条線の烏丸以西が廃止され、翌年には、外周線（東大路、北大路、西大路、九条）と京都駅～丸七条～東山七条間も営業を終えた。現在の市内循環バス路線に引き継がれている。

の邦楽愛好家の人たちが十名程で邦楽アンサンブルを楽しんでおります。詳しくは秘在寺のホームページを御覧下さい。

さて、卒業後、私は郷里の富士市に帰り、富士市立博物館の学芸員を端緒に、発掘調査や文化財保護行政に携わり、五年前から博物館長として勤務しております。

現在、当博物館は、四月二十九日のリニューアルオープンに向け大改修工事を行っており、自分の思い描いてきた博物館があと一息で完成するところです。リニューアル後は、富士山の世界文化遺産登録を受け、富士市に伝承されている、かぐや姫が富士山の女神になったという「富士山信仰と富士のかぐや姫伝承」をメインに据えた博物館に生まれ変わります。愛称も「富士山かぐや姫ミュージアム」に決まり、観覧料も無料となります。富士山観光におけるの折は是非お立ち寄りください。

因みに、かの白隠禅師は富士市比奈の竹採塚に営まれていた無量寿禅寺（廃寺・白隠禅師墓所が残る）を再興されておりますが、禅師は「荊叢毒薬」の中の「無量寿禅寺草創記」でこの地こそかぐや姫誕生の場



所であり、かぐや姫が実は富士山の神様であることを克明に記されており、当博物館はこの伝承を全国へ情報発信しようと考えております。

私はあと三年で退職となりますが、一昨年に、隣町の沼津市が中心となり、国際禅学研究所の芳澤勝弘先生を塾長として「駿河白隠塾」がスタートし、フォーラムや、展示会・見学会等を開催しておりますが、



一回生の時の邦楽部・水無月コンサート「三段の調べ」吹奏、右から私、菊池君、中森君。



伊豆修善寺の旭滝にて献笛、右から二人目が私、左端が三橋真風師匠です。

ご活躍を祈っております。



二〇〇四（平成十六）年

史学科卒

中川 剛

私にとって花大の四年間は実に楽しい時間でした。ただ難を云えば私がいなかったばかりではなく、研究を始める土壌になかったことに悩みました。思い切った書いた中外日報の※「峯尾節堂」の小文も各方面から手厳しい批判を受け、俄然近代仏教史の幅の広さ、奥行きを痛感し、私の研究テーマが研究できる同朋大学の大学院に進学し、仏教者に

私も運営委員として微力ながら手伝いさせていた中で、遅まきながら白隠さんへの興味が湧いてまいりました。これもまた法縁でしょうか。

これからも花大が与えてくれた沢山の出会いを大切に、また、心の拠り所とし、人生を歩んでいければと思います。



一九九一（平成三年）

国文学科卒

上野 康浩

同窓の皆様、学校関係の皆様、お元気でしょうか。

卒業してから間もなく四半世紀が過ぎようとしています。実家の富山へ帰ってきてから、裏千家のお茶を習っていますが、お茶の先生から盛永老師の名が出てビックリ。聞けば、今のお家元坐忘斎の師であったとか。社中の皆様からは、盛永老師のお話を聞く機会があったことを羨ましがられています。最後に皆様の益々のご健勝をお祈りいたします。



二〇〇〇（平成十二）年

史学科卒

澤井 亮佑

二〇〇一年より韓国に渡り、大学院留学、塾講師を経て、現在は、釜山外国語大学日本語創意融合学部にて、助教授として教壇に立っております。

花大では、日本民俗学（芳井教授）を専攻していましたが、現在の私の専攻は、日本語教育です。科目は変わりましたが、芳井教授から教わった「いつも楽しくユーモアを交えた」授業を目標（モットー）に日々頑張っております。



二〇〇六（平成十八）年

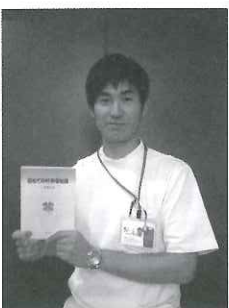
大学院修士課程 社会福祉学科修了

中川 陽子

花園大学社会福祉学修士課程を修了して十年になります。このような節目にこの場をお借りして近況を報告させていただけることに感謝申し上げます。私は、社会福祉学部の福祉介護コース第一期生として学友とともにたくさんの時間を過ごしました。四年では満足できず、修士課程

て頂きました。

今、様々なことを経験するなかで花園大学の先輩・同級生や先生方との出会いが、私の大きな財産となっていることを実感しています。



二〇〇五（平成十七）年

社会福祉学科卒

松田 修一

私は、社会福祉学部で学んだことを活かし、某介護用品メーカーの営業として、日々病院や介護施設を訪問しております。商品を売る意識ではなく、何らかのメリットを出せるように心掛けています。福祉の現場で働く同級生とも、情報交換などで交流は続いています。大学時代の学生生活、経験は、仕事をする上でも財産となっており、懐かしく思い出す日もあります。

でもお世話になりました。古橋先生のゼミで研究を続けることができ、修士課程まで無事終えられたことは、私の糧となっております。現在は、三人の子どもたちに恵まれ、福祉系専門学校を本務校に短大の非常勤講師などをしております。また、古橋先生のご執筆される著書に執筆者として携わる機会をいただくこともあります。

先日は、介護コース一期生の集まりがあり楽しい時間を過ごしました。同期の活躍を聞きながら、また花園大学の先生方のご活躍を拝見しながら私も現状に甘んじることなく邁進していきたいと決意を新たにしております。研究室で遅くまで議論しあった日々、厳しくも優しく温かく見守ってくださった先生方、今でも会うとあの頃と同じように楽しく過ごせる仲間、学生さんたちの相談に毎日耳を傾け私たちのために色々ご尽力いただいた職員の方々……あの頃を振り返り、思いを馳せております。皆様、お元気ですか？ たくさんの方々に支えられたからこそ今の今があると感じております。本当にありがとうございます。花園大学の益々のご発展と学生の皆様の今後の



二〇〇六（平成十八）年

社会福祉学科卒

藤田 知幸

現在、山科の近くのディサービスで、生活相談員として働いています。大学で友人たちと一緒に、社会福祉の勉強をしていた日々が、懐かしく感じられます。大学で学んだ福祉の基礎をもとに、卒業後も自身の研鑽に励んでいます。



二〇一〇（平成二十二）年

社会福祉学科卒

西川 慎之助

五年前より、自宅近くの就労支援事業所で、清掃の仕事に従事しておりますが、視覚障害があり、日々苦闘しています。その甲斐あって、仕事にも慣れ、少しずつコツを掴む様になりましたが、体調のすぐれない日が続いたり、乗り越えなければならぬ問題があります。



書籍案内

生活保護「改革」と生存権の保障

～基準引下げ、法改正、生活困窮者自立支援法～

吉永 純  
明石書店  
2,800円+税



1955(昭和30)年、熊本県に生れる。花園大学社会福祉学部教授。本書の立場は、憲法25条を生かし、雇用分野において非正規雇用などの規制を強化し、人間らしい労働を保障すること、また社会保険や社会福祉制度を強化しながら、貧困に至った市民に対しては、等しく生活保護制度を活用して、自立した健康で文化的な生活を保障しなければならないというところにあります。

本書が、貧困に苦しむ当事者や、ケースワーカー、法律家などの支援者、また貧困や福祉の研究者や、学生、院生のみなさんの活動や研究の糧になれば、これに勝る喜びはありません。

名もなき求道者の大逆事件 峯尾節堂とその時代

中川 剛マックス  
1,600円+税



1981年ブラジル・サンパウロ州モジダスクルーゼス生まれ。2004年花園大学文学部史学科卒業。2010年同朋大学文学研究科仏教文化専攻博士前期課程修了。現在、仏教文化研究所客員研究員。

『トスキナア』『Fukujin』『中外日報』などに論文を発表。現住所：岐阜県土岐市肥田浅野梅ノ木町1-20-5

〈華族爵位〉 請願人名辞典

松田 敬之  
15,000円+税



明治2年に誕生した貴族階級“華族”。戦後の廃止に至る約80年間に、士族・平民からの昇格を望み請願をした約900人を収載。『授(じゅ)爵(しゃく)録(ろく)』や請願文書、政治家らの日記、新聞など公刊・未刊の諸史料を駆使し、彼らの経歴や請願年、請願理由、受理・不受理などの結果を解説する。授爵・陸爵(しょうしゃく)・復爵(ふくしゃく)者一覧や索引を付した、華族制度研究に必備の辞典。

(本書 帯より)

同窓会事務局より

市区町村合併・住所表記変更に対応し、「日本郵便・市町村住所変更情報」に基づいてデータ更新を進めておりますが、「郵便番号、町以下の地名、地番」に変更の生じた場合は、把握できません。現在、旧表記となつていても、一定期間後、宛先不明扱になりますので、お手数ですが、「郵便番号、町以下の地名、地番」に変更の生じた皆様には、ご一報賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

編集後記

嵯峨広沢の池では、池水を抜いて鯉鮒を捕る「鯉揚げ」が終わり、冬中見慣れたカモやツグミたちも、遙かな北国に旅立つ季節を迎えました。程なく、池畔より大覚寺に至る、田園の小径も桜に彩られ、多くのハイカーで賑わいます。

この季節を迎えますと、いつも、「花見など無縁の必死の四年間、後年、桜名所を巡ったが、あの桜に勝る桜はなかつた」とのご同窓の言葉を思い出します。

ご同窓の皆様お一人お一人の胸に、かけがえのない学生時代の思い出が、去来されるのではないかと存じます。皆様ご健勝を祈念申し上げます。

臨濟禅師 1150年 遠諱記念  
白隠禅師 250年

禅 一心をかたちに

会場/京都国立博物館  
2016年4月12日(火)～5月22日(日)

※展示替あり

会場/東京国立博物館  
2016年10月18日(火)～11月27日(日)

※展示替あり

主催：臨濟宗黄檗宗連合各派合議所・京都国立博物館・東京国立博物館・日本経済新聞社

<http://www.rinnou.net/>



京の散歩道

山鉾巡行と阪急電鉄

二〇一五年七月十七日の祇園祭・山鉾巡行は、台風の影響で開催が危ぶまれたことは記憶に新しいかと思えます。最終的には、十七日の朝に暴風警報が解除されたことで決行されたわけですが、祇園祭の歴史を紐解いてみると何度か中止・延期があったようです。

山鉾巡行は、応仁の乱と太平洋戦争という大きな戦いの影響で中止していた時期がありますが、それ以外の争乱や天災では中止ではなく延期で対応していました。禁門の変や明治のコレラ流行の時も延期で、一五八二年六月の本能寺の変とそれに伴う争乱の中でさえも十一月に延期して開催されていて、祭にかける京都人の熱意が感じられます。

そんな山鉾巡行ですが、中止された事例がもう一つあります。それは一九六二年で、四条通の真下を走る阪急電鉄京都線・大宮く河原町間の延伸工事による中止でした。戦乱やコレラなどのやむを得ない中止・延期理由の中でただ一つの工事による中止で、祇園祭の長い歴史の中でも異彩を放っています。河原町駅から西院駅までの阪急電鉄地下区間は、景色が楽しめますが、よほどのことがない限り決行されるあの山鉾巡行を中止せしめた歴史的な工事の区間とみれば、この薄暗い空間もまた別の趣が感じられるのではないのでしょうか。





花園大学同窓会会員のみなさまへ

## 『花園学園 150 周年記念誌』 編纂への資料提供について



日頃は、花園学園へのご指導、ご鞭撻をいただき誠にありがとうございます。

花園学園は、明治5年(1872)に般若林として創立され、平成34年(2022)に「学園創立150周年」を迎えます。この機に、設置校(大学、中高、幼稚園)の歴史をすべて網羅した学園として初めての『学園記念誌』を発刊すべく現在、資料収集および編纂作業を進めているところです。

そこで大学同窓会員のみなさまにお願いがございます。みなさま方の大学在学中の思い出の写真・品物の中に、当時の大学の風景、活動、風俗などを伝えるものがありましたら、記念誌編纂委員会にて、一時お借りして編纂に役立てたいと考えております。ご寺院様におかれましては、花園学園を卒業された先代ご住職様、先々代ご住職様の思い出の写真・品物もお借りできればと願っております。

さらに、「当時の思い出」「未来の花園大学」「花園学園への期待」など文章にして寄稿していただくことも歓迎いたします。学園記念誌発刊に向けてご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2016(平成28)年3月

花園学園150周年記念事業委員会 常務理事 宮川 禅磨

花園学園150周年記念誌編纂委員会 委員長 千代 真一

### <お問い合わせ・ご連絡先>

資料につきましてのご連絡は、記念誌編纂委員会事務局宛に、下記FAXにて、お手数ですがご連絡いただきますようお願いいたします。

「ご氏名」「ご連絡先電話番号」「資料の内容」を明記の上、FAXいただければ折り返し記念誌編纂委員会事務局よりご連絡いたしますので、同窓会員のみなさまのご協力よろしくお願い申し上げます。

花園学園150周年記念誌編纂委員会事務局 FAX番号 075-406-0313



花園大学 同窓会通信92号 2016.3発行

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1

同窓会本部

電話 (075) 811-5181 (代)

電話 (075) 283-1125 (直)

FAX (075) 823-0600

URL <http://www.hanazono.ac.jp>

E-mail [kouryu@hanazono.ac.jp](mailto:kouryu@hanazono.ac.jp)